

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和7年9月22日(月)

みんなの居場所

雑感

朝晩、過ごしやすくはなりましたが、日中はやはり暑い。私が小学生の頃は、気温が30度を超える日は稀だったように思う。今では朝から30度を超え、日中は35度を越え40度に迫る勢いだ。

熊本には「随兵衛台(すいびようがや)」という言葉がある。藤崎宮秋の例大祭の随兵行列の日の境に涼しくなるという意味だ。昔はそうだった。でも最近は…。

今年の藤崎宮秋の例大祭の随兵行列は昨日だった。威勢のいいラッパの音を聞き、汗だくの親子たちを見て、夏の祭りの様相だ。「○○の秋」を満喫するにはもう少し時間がかかるようだ。

「主体性」について思う「その②」

②「自己決定の場面設定」

主体性のない子どもは、「自分で決める力」が弱い傾向にあります。「服をこれにするが」「外食先のメニューはなにがいいか」「遊びたいところを良いので」「いつ遊ぶか」と子どもに聞いてみるというですね。自分で決める練習を積み重ねることが重要だからです。自己決定には責任が伴います。自分事として捉えやすくなるのです。近い将来、子ども達は受験をすると思いますが、親が決めた進路に進み、自分で進路を決めなかったことです。壁に突き当たった時、その言い訳は「親がこの学校に行けと言ったから」となります。責任の欠如につながり、主体性も自己肯定感の減少もみられるようになります。負のスパイラルから脱却するためにも、小学生段階から積極的に「自己決定の場面」を設定することが重要です。

③「自己肯定感を育む」

「自分で考え、判断し、責任をもって行動する」力である主体性、または「この主体性を発揮するために自己肯定感が欠かせません。失敗しても大丈夫」「このままの自分を愛し入れ、サポートしてもらえれば」「自己肯定感があって初めてやってみたい」「挑戦してみよう」と思えるのです。子どもの失敗を責めるのではなく「もう一度やってみよう」「応援してるよ」という姿勢が大切だと思えます。

④「個性を受け入れる」

「今日はこの服を着たい」「外遊びのものが好き」「辛い食べ物に挑戦したい」「なやんだ瞬間に子どもの自主性の芽が出る」とあります。しかし、それが親の予想から外れていると「それはやめなさい」「絶対おどきなさい」「なやなタイプな言葉かけをしてしまいがちなんです。折角興味をもったことを否定され続ける」「子どもはやはり」「言われた通りにして欲しい」と思ってしまう。いかに子どもの興味や個性を受け入れることが大切なのか解る。興味関心から始まる活動や勉強は、子どもの探求心をくすぐり、「もっと知りたい」「こんなこともやってみたい」という主体的な学びへとつながります。また、予め与えられた「ルールを自指すのではなく、試行錯誤を繰り返しながら子ども達自身で「ルールを自指する」ことも大切です。ちょっとした工夫で子どもの主体性を育てることができるとですね。かく言う私、我が子に対しては中々できませんでした。(その③へつづく)

シリーズ「自分を語る」#300

手術が決まったからには、さっさと「諦め」といって「腹をへった」といって、痛みはあるものの、一生を過ごすのは痛みが治まるという先の見通いができて、少し安心したのを覚えています。手術日は平成30年11月22日と決まりました。

手術まで1週間弱です。この間、様々な検査が行われました。まず、脊椎造影検査の再検査です。これは、前の病院で撮った画像の解像度が低く、撮影した日から随分時間が経っていたことが再検査につながったようです。どこまでもこの検査は痛いです。しかも、熊本整形外科で検査を行った時は、ヘルニアの部分で巨大過剰で、造影剤が脊柱管にうまく通らないので、上下2か所から造影剤を注射するという方法がとられました。2回針を刺すという処置です。これも治療のため、仕方ありません。

次に行きましよう。次、看護師さん方は「血力ス検査」と言っていました。確かこれは「血中酸素濃度」を測る検査だったと思います。最終動脈から動脈血を採血します。足の付け根の部分に、ほぼ直角に針を刺します。結構深く刺します。動脈は静脈に比べて深い部分にあるので、それだけ大きな部分なので、うん、もう怖くて怖くてたまりませんでした。痛みはそんなになかったのですが、その後圧迫止血をするのが大変でした。普通の静脈注射のように軽く押さえるだけではないのです。執刀医の先生が親指で分厚く押さえた後、看護師さんが交代され、延々20分くらい圧迫していました。動脈の血流がそれだけ強いんだなあ、とほやほや思いました。

3つ目の検査と言いますか、あとは細々とした多くの検査をしました。肺活量の検査、腎機能検査、血液検査…。腎機能の検査は面白かったです。早朝(6時ごろ)に看護師さんが来て「水を今から6000cc飲んでもらいます。その後の尿量を測ります。」とのことでした。「なるほど」と感心していましたが、私はベッドから移動が困難だったので、水を飲むのも、おしっこも全ベッド上でしたので、水は飲めたものの、おしっこが中々出ませんでした。しかも看護師さんは、目の前でやり取りしています。大変でした。

手術前日は剃毛の脇から上を剃りました。(を行って、もうほんとたまな板の上の鯉でした。何度も看護師さんが血圧を測りに来ていました。普通なら眠れるのですが、さすがに手術前日は緊張で中々眠ることができませんでした。今後のこと、将来のこと、仕事、恋愛…。多くのことが頭の中で巡りました。結局「フツ」たところ、朝が来た感じでした。

手術当日は、朝の涼風から始まりました。トイレを済ませ、次に筋肉注射を両腕に一本ずつ打ったのですが、「ここから私は少く「ハイ」な状態になっています。やだやだ喋り出して、それに脈絡が無く、とにかく手術室に入るまで喋り続けていたんです。家族から「頑張れよ!」と声をかけられ、手術室に着くと、照明灯があつたその近くに点滴があったのを覚えていますが、マスクをかけられ「ゆづり深呼吸して数を数えてください。」と聞かれ、その通り「ゆづり深呼吸」を繰り返して意識が遠のいていきました。手術開始は午前9時だったと思います。この5時間後、病室に移動することになります。(これから4週間の生活はつても辛く、一度と経験したくないものです。)(つづく)